

教授会の議論から判読すべきポイント：

- ① カリキュラム委員会の進め方は、one way communication、いわゆる、独善。
 （太田教授の発言が「カリキュラム委員会の進め方」について客観的である：41分58秒～43分38秒）
 - ・衆知を集める、ということはない。「全員経営」「衆知を集める」「経営参加」という概念が欠落したカリキュラム運営
 - ・議論させない。「発想法」「チームデザイン」の概念が欠落しており、「カリキュラム委員会の発想にとどまっている」
- ② 被告井形が原告の「プアー発言」を問題視しているところ(46分6秒～49分)を聞く、あるいは、この反訳書を閲覧してください。
 - ・「経営学」で採用された本人が、「経営学総論」の担当を非常勤に依頼し、本人の研究分野である「企業の社会的責任」に集中した方が、結果として経営学部プラスという発言を指して、「プアー」と言っています。
 - ・1年生に「経営学総論」を教えるのは、経営学分野に興味を抱かせ、強い関心を持たせる意味で、何より重要です。それゆえ、深い見識と経験が求められると、原告は判断しているためです。
 - ・安易に非常勤講師に任せる、自分はCSRに特化する、という発想が「プアー」に他ならないと思います。
 - ・原告が「プアー」とみなした根拠は、
 考え方、発想が、もう少し「説得力」「使命感」「情熱」「プロフェッショナル」であってほしいという期待・要望から出ています。
 - ・決して、被告井形を蔑んで、あるいは、馬鹿にして言っているのではないことが理解されるはずですが。

65分38秒の時系列		井形浩治学部長・理事、池島真策副学部長・カリキュラム委員長、吉野忠男学部長補佐、北村實総務担当理事・カリキュラム委員
start time	end time	発言者 会話の内容
		井形 そうしましたらですね、ちょっと今日大きな、6番目カリキュラムについてですが、池島先生、***
8秒	8分33秒	池島 カリキュラム委員会でカリキュラムに関して検討してきた内容、例えば、学則の変更、新設科目、ゼミのあり方などの説明がある。 *** <記述は省略する> ***
8分51秒		吉井 ちょっと意見うていい。
		池島 はい
	9分36秒	吉井 あのー、こういうふうな大事な係わりについては、そんー、われわれも議論させてほしいと思うんですが、皆さん方はどう思われるんでしょうか？ あのー、カリキュラム委員会だけで話をすすめていかれるのではなくて、そのー、一番重要なところなので、我々もドンドン意見交換してそのなかでこういうふうなやり方をしたら本当に学生にとって実学教育になるな、とかね、いうふうな議論ができると思うんですが、 あのー、ま、わ私は今年はまだ定年で来年は特任になるか どうかかわからないんであまり言えないんですけど、あのー、私だったらもっと議論させてほしいと思います。
9分36秒	9分44秒	池島 あのー、先生よければこの場でいただいておりますし、 あるいはまだあの提案な * というのは確定というわけではなくて、皆さんにこう、えー
		吉井 あのー、経営学だけという、あのー、なんちゅうかな、えー、法律は法律で適当にやるよというふうにしかに私には聞こえないんでね。あのー、そういうふうなものではなかるー、そうであるならば経営学部には経営学科オンリーが経営学部であってほしいですね、そういう話し方をされるのであればね、
		池島 そういう ** ではなくて、あの、*** できるものは *** という形にして、あの、もちろん、よければ
10分13秒	12分15秒	吉井 あのー、実学教育というのはうちの大学の1つの大きな柱だろうと思うんですが、そういうそのー、えー、実学教育にむけてのいわゆる学問体系の構築といったようなね、そんなストーリーもほしいと私は思っているんですよ。 で、それからもう1つその学生をみていてこんな能力を付加しておいたほうがいいんじゃないかというふうな、えー、ズーと思ってきたんですね。いわゆる経営学部生ならばこれぐらいの知識、基礎知識を持ってほしい、えー、例えば、統計解析についても統計解析つまりデータからその現状をどうアプローチしてどういうふうなデザインするかとかね、そういった能力をしっかりと付加、付与させておきたいとかね、そういう気持ちなんかを持っておったんですけれども、 ま、他にもありますけれどね、そういうのをこうお互いにつつけあって、その、教育をとおしてみんな疑問を感じたりあるいはこうしたらと思っているはずだからね、そういうのをぶつけあって、 じゃー、実学教育のためには、こんなカリキュラム構成にするといいんじゃないかとかね、そういうその、ほんとに腹割ったフランクなディスカッションの場が私はズーと前からほしいなと思っとったんです。 で、えー、その、この前、本間先生、えー、旗振りして下さって初めてそういうあの、意見を言わせてもらえる場に私自身が参加させてもらったんだけど、10数年おってあんなフランクな場というのは私初めてなんだわ。だから、そういう形で、我々が教員がね、自ら練り上げていく、こういうふうにやったならば学生にとってプラスになり、ゼミもこんなポジションでゼミをひらくと学生の実力がつくんだというふうなね、そんなその議論をさしてほしいなと、 決めるちゅうんじゃないでさしていただいてそれを練り上げてカリキュラムに落とし込んでいくというね、そういう作業をしてほしいというのが私の、えー、希望です。 すみません、あのー、ま、10数年の、えー、私のこの学部におつての、あのー、ズーとそういう気持ちで働いてきたんですが、ま、そういうことです。

13分4秒	吉井	ですから、決め方ちゆうのは本当に重要なんだよね、えー、今まではほんとに、えー、その、意見を聞いてくださらない形で決めていかれて、で、前の執行部なんかは逆にいうと、私は、えー、なんだっけ、えー、なんとか科目をその基礎科目じゃないわ、なんとか持っていましたけれども、いろんな圧力をかけられたりしてね、担当科目を外すとかいろんなことをやられてきた訳だわ。だから、その、力のバランス、アンフェアなやり方やなくて公明正大な、えー、決め方をしていくとかね、そういうふうなやり方をしてほしいと思います。あの、今、あの、おっしゃったのは公明正大とかそういうんじゃないで議論されたのでそこに対する不安はないんですよ。ないんですけども意見をかわす、そして、えー、決めていくという場を是非作ってほしいと思います。じゅ重要などこについてはね、
13分35秒	池島	ま、学科会議というのはありませんので、ま、適当にこう集まって、こう、カリキュラム委員のかたにこう ** するか、混ぜながら議論してもらって、ここに案としてだしてもらったらいかなと思いますけども、よかったら、ま、そういうふうにしていいただいたらと、それからあとズーと、あの一、経営学部の学則改正についてという形でできましたので、その度にこうちょこちょここういう形になってきますというふうに言っていますので、また意見があれば、あの一、おこ ** もそうですけどもフランクに言っていただければと思います。
13分45秒	北村	あの、じ実は、ま、あの、かカリキュラム委員会の本間さんはそそういうことをこれからやるというので調整いただいたと
14分2秒	本間	えー、ま、あの、学科会議は開くことはできませんので、えー、僕自身が、その、適当にお声がけをするということになるのかなと思います。
	池島	あるいは、ま、あの一、こういうふうに
	吉井	せやけど、先生が頑張ってもその方向で決まらない可能性があるだろ、
	本間	ま、あの
	吉井	だ、だから、我々経営学部学科の教員がね、こういうふうにしてやりたいという総意を汲んでいただいてそれを承認していく、という場が僕は大事だと思うんだわ
	本間	その場を作ることができないのが、今、現状
	吉井	だから、重要なやつは、やっぱり作らなあかんのとちゃうか、
14分41秒	池島	いや、でも、先生方で、こうね、こうしたいんだけどと集まって、それをま、本間先生に託しながらカリキュラム委員会に出してもらおうという形で、全然構わないので、よかったら先生も、あの、別に、あの一、こ今年で終わりだからとか、そういうことに関係なく言っていただければと思いますけども
	池島	ど、どうぞ、先生、あの、自由に言っていただければ
14分47秒	吉井	あ、今、
	池島	あ一、今でも結構ですし、あるいは、もう、あの
14分50秒	吉井	他の先生がたはどういう気持ちでおられるの、林田さん、どう、あなた、私と一緒にだろ
14分56秒	林田	いやいや、は、は、あの一、えーと、これに関しての意見ではないんですが、えー、あの、多分、こんなこと言うと、また皆さん、反対意見のほうが多くなるかなとは思いますが、ま、たまたま何年間も進路支援委員をやらせてもらっていると、あの、つい、進路とか就職のことばかり頭にあるので、ま、そういう人間の意見だと思って聞いてもらいたいんですけども、なんとなくね、本学のカリキュラム体制のタイミングのところに問題があるんじゃないかというふうに、最近というか、ま、もう3年ぐらい前から考えているんですね、で、それはどういうことかという、ま、僕が、あの、就職した頃の企業の就職、あ、じゃない、学生の就職活動のスケジュールに比べて明らかに半年早くなってるという感じなんですよ、だから、ま、これ、例えば話でいうと、試合は半年早まったが、練習スケジュールは以前どおりというね、わかりますかね、言っていることの意味が
16分9秒	吉井	タイミングが早くなってんだね、
17分32秒	林田	だから、オリンピックを終わった後でオリンピックの練習をしましょう、ということですよ、んで、いやいや、あの、前はそれで間にあった、いや、オリンピックが半年早まりましたよって、それなのにスケジュールは前のままなんで、あるいは、甲子園終わった後で一生懸命甲子園めざして練習やってるという形になっていて、なかなか先生たちが一生懸命苦労してるわりにはね、成果がでないというのは、これ時代の流れに、特にテンポですよ、に大学のスケジュールが追いついてないのではないかというね、ちょっとなんか偉そうなことって申し訳ないんですけども、そういう気があるんです。半年というのはね、大分おっきな変化ですよ、それに合わせてちゃんと、ま、納期にあわせてせいひ、生産するんじゃないけれどもね、あの一、やっていけないといけないと思うんです。そうするとね、3年の終わりぐらいにほぼ完成品ができあがってないと、ね、未完成品でも買っていただけますかっていう時代ではないと思うんです。したがって、何か、とく、あの一、えー、あんまり言うところ議論を拘束しちゃうんで言いたく、ま、このくらいにしときますけどもね、その半年早まったという点でスケジュールをもう1回見直してもらえないかというのが僕の意見。

18分58秒	北村	あの一、林田さんの今の言い方は多分1年前の林田さんの言い方と大分、あの、加速してきてるちゅうか、かわ、変わってきてりんですね、で、多分、あの、カリキュラム委員会のなかでも、ま、あの、ひと、人による、人によるとは、あの、かなり、あの、そういうこと、非常に明快に、つまり、学生をどういうふうに仕上げていくんだという仕上がり像みたいなものを、あの一、置きながら、こう作っていくんだということを熱心におっしゃる、ま、具体的に名前は言わないけれど、あの一、そういう流れが一方にあります。 で、同時に、あの一、結構、やっぱし、あの、あの一、体系とか学問体系ということに気にする方もおられて、いずれにしても、あの一、し ** みからどっかで妥協しながら作っていく訳で、もう9月にきて、あの一、一旦、かくうで固めながら教務じきに落として、これがちゃんと動くかどうか、システムの改善もしてもらい必要があるの、やりながら最終確定へと向かっていくという過程のなかで言うと、あの一、さっき、あの、ビジネス法学科の、あの、全部考えている訳ではなくて、さっき本間さんが言うようにかんけいしましよき連絡先、これどうなるというたりしながらあの固めている訳で、 で、ここで、ま、あの一、吉井さんが今年お辞めになるかどうかというのはかんしんは、あの一
19分2秒	吉井	あの一、辞める辞めない、そう言わんでくれ、あなたの圧力があつたら辞めんなあかんわけや
19分3秒	北村	はっはっはっ、あの、あの、つまりあのもっと集中して勉強させようという流れを作ろうというのが去年の年度末のカリキュラム委員会の方向なんです。で、そこところが今ちょっとまだあの一あの、今年複数の方向があつてまだもうちょっと見えないなというのが多分経営学科のほうなんです、 したがって、さっきの池島さんの言い方は経営学科のほうの、ま今、調整という言葉で書いてますが、そここのところはまだ、あの一、問題点残ってるな、で、まだこれあの一、ま、本当は今日あの一確定したいというつもりだったんだらうけども、残ってるんで、なにも *** という人はいないんで、あの一、ま、本間さんや後藤さんのところあたりを中心にしながら意見集約をしていって、あの一、よければ次の時には、うえにあるビジ法みたいな体系があの一の体系ちゅますか理解してもうて、確定できるとええな一と思てるのがカリキュラム委員長の今のきぶんなんだらうと思います。あの一、本間さん、そういうことですよ
20分4秒	北村	はい、えーと
	北村	想像だけで言うてま
20分12秒	本間	ちか、ちかじかでも集まりを持てればとは思
	吉井	ちょっと意見言わせてくれる、いいですか
	池島	はい、どうぞ
20分15秒	吉井	あの一、え一、前に例えばビジネス法の方で仮に枠組みが決まったとしたならば、できるだけその後続くものはその枠組みのなかで調整しようというそういうその一、え一、条件つきの、え一、活動に、え一、まとめにならざるを得ない、ということが1つね、で、え一、それが果たしているのか、というのが1つです。で、それからもう一つ、あの一、え一、言っているのは、あの一、いわゆるその、実学教育をして、え一、今林田さん言ってくれましたが、その一、どんな学生をどのタイミングで送りだしていっていいかとしているのか、その学生にどんな知識を付与しているのかしてきたのかというね、 そのいわゆる上からくる、例えば、え一、その就職活動をするであろうその3年生の終わりにはこういう姿の学生を作り上げたいんだと仮にこしらえようよ、 そうしたならば、そこを目標にしたならばどんな学問体系をどの年次で落としていくべきだらうか、それから、え一、その科目の内容はこういうコンテンツを、その一、え一、主張したいんだとかね、そういうふうな議論を、え一、持つことによって、初めてその一なんちゅうかな、体系だった学科目がえ一構築されると、僕はズーと昔から思ってたんだわ、 で、あの一、ま、あの、今回そういうふう非常に重要なことなので、あの一、ズッとこれからもこういう、え一、経営学部とか経営学科が存続していく訳だから、あの一、そういうふうな素案が1つは持つべきだらうという状況でね、あの一、ま、今年は無理ならば来年でも、あの一、皆さん方で、え一、その、側からですね、そういう、私の案がいいのであれば、ほんで、それが学生にとってプラスであるならば、そういうふうな検討をしてほしいということです。別にあの一きゅ急に今やっできるものではなからうと思うんでね
22分9秒	?	はっはっはっ
22分28秒	池島	一番最後の回答だけしておいていいですか？ 別にあの一決してビジ法に合わせる必要はなくて経営学科は経営学科でこういう像を作りたいこういうふう育てたいということによって自由によつていただければいいので、 またそれあの、意見を本間さんなり後藤さんにあの託されたら
	吉井	あの一、本当を言うかね、僕のような人間をカリキュラム委員に入れてほしかったんだわ、おれ、ズーとおったけどね入れてくれないの、だからカリキュラム (注: カリキュラム委員から外れているのは、 2002年4月以降、北村体制が固まって退職におこまれた今日までという意味です)
	池島	*** そそそんなぶぶんではそんな *** <聞き取り不可> ***
	吉井	だからそれは言えないけれどもね、
	池島	はい
	吉井	僕はカリキュラム委員会のメンバーをどういうふうに出すのか、で、僕はあの一なんだっけ、二宮さんとか樋口さんとか北村さんもそうだけどいろんな圧力を受けてきたのが僕の姿なんだわ、だからね、そういうその重要な意思決定をしなくちゃいけない組織にそういうそのディスカッションできるメンバーを入れていってほしいということです。
	池島	ありがとうございます、

	23分6秒	吉井	同じような思想体系の人が集まらないようにしてほしい
		池島	ありがとうございます、
		吉井	ということです。
		池島	はい、ありがとうございます
	24分0秒	黒田	あの一、今回このご覧になっているもののうちの幾つかは、あの一、私が勝手に個人でカリキュラム委員に提案して検討していただいたという経緯があって、あの一、おそらく吉井先生も同じようなその具体案をお作りになったらそういうことができるのではないかなと思っております、 で、私が出したものと今ここに上がっているものとの違いは、あの一、配当年が入っていないくて林田先生がご指摘されたような問題があるとは思いますが基本的には、あの一、1年前倒しに、ま、これ、春と秋の区別が *** ではありませんからそこまで出来ないんですけれども、それと数字上、今までは3年から専門科目をはじめてたものを2年から始めるという形で、ま、*** の提案をいたしますと、
		池島	ちょっと ** 配付年次
			*** <黒田、田中、発言あり、聞き取り困難> ***
	24分21秒	北村	この、あれですよ、あのこの後、配当年次入っていないのは面倒くさいからやと思うんですね、配当年次 *** 前倒しにせということですね
		黒田	あ、あの一、前倒しにしてたんです、表では
		北村	あーそうですか、
	24分39秒	吉井	ちょっと意見言わせてくれる
	25分36秒	北村	ももうちょっと最終的に一連のつくる時に、あの一、順番にやっついていかないと、いっぺんにバサッと出して根っこからひっくり返ったりするとあれだから、順番にやっついていく訳です。 ただ決まったところから早く出していくと駄目ですよと、あの一、なにもビジネス法学科のほうでそろそろさ ** きかんてん展開も ** というのをやって全体の *** あの一、つまり、あの中心科目 *** 黒田さんからいただいて、大体そういう線にしたけれど、経営学科もそれと同じようにします、するべきだと私言ってますよ、むしろ後藤さんのほうから、そうしたらいいんじゃないのというものを出したけれど、*** むしろあの一他にもそういう問題があるので、今、この問題に集中してそれこそあの *** 本間さんや後藤さんに意見を ** そら、
	25分36秒	吉井	ちょっと意見を言わせてくれへんかな、
		池島	はいはい
	27分39秒	吉井	いい、あの一、ゼミでえ一関係あるのはえ一、経営学科の学生、それからビジ法の学生、で、それをそれぞれの学科別にゼミを応募しようじゃないかという話があったよね、で、あの一、それがいいかどうかちゅうのは非常に重要な、え一、もんだと僕は思うんです。で、吉井ゼミのほうでもビジ法の学生が結構来ています。 で、え一、学生というのは全くその一、白地のようなもので大学に来てから興味が湧いてきたり、あ一、こういうふうな科目にふれたからこういうふうな分野に目覚めていくというふうなね、そんなこともあるだろうと思うんだよね、だから、そういうふうな枠をかけるちゅうのはいいかどうかはちょっとまた、皆さん方にはかっていたきたい項目であると、つまり、ゼミの枠組みをね、え一、ビジ法だけ、え一経営学科だけというふうな、え一、決め方はいいのかどうかです、そういうのもやっぱ決めてほしいなと、議論させてほしいなと思います。 あつ、それからちょっとごめん、僕、言いたかったのはもっと別なんだわ、あの一、ゼミなんかズーとやってきたりしてね、あの一、今のゼミのやり方で本当に学生に実力がつくんだろうかというふうな形、んでそれで、こういうふうにしてその一人一人で、え一僕は20数名ぐらいもってますけれども、やる、え一、そういうふうなやり方ではなく、があの今やってる訳ですけども、そういうやり方ではなくてもっと開放的でもいいから、え一、多くの人数の学生を多くの先生がコラボしながらね、え一、いろんなその、側面から指導できるようなそういうふうなゼミがあってもいいんじゃないかなと思ったりする訳です。 ですから、そのたい、え一、いわゆるフリーに、え一、こういうふうな、え一、その教育指導ちゅうか、ゼミにとっての指導がいいのではないかというふうなそういうそのディスカッションちゅうのも僕はプラスになると思います。 一応意見だけ言わせてもらいます。
		井形	はっはい、 *** 、林田先生
	29分2秒	林田	いや、さっき、あの一、なんだっけ、北村さん、先生から言われたのがそれに対する意見としては、ま、僕は、あの一、え一とスケジュールを、ね、聞かせてもらいましたから、到底、僕の考えをやるには、そんな無理、議論をはじめてから完成するまでに1年以上かかるような、あの一、意見を僕は持っていますので、で、ま、この経営学部の多分10年に1回ぐらい大きく変えてきた過去があるんですよ、 僕はもうそういうことをやる時期だというふうに、でそのやるタイミングは2、3年ずれたという形で思っていますので、ま、その、ずれた人に責任負わせるんじゃないで僕もそのせ、一端はあるんですけどもね、なので、大きく変える必要があると思うんです、大きく変える必要があると思うんです、したがって、ま、あの一、それを今年の、あの9月のま、何日というようなやつで、というようなものにはもう間にあわないので、ま、別に今僕が言った意見でないからといって反対するつもりは毛頭ないと、ま、今後、多分10回以上僕は同じことをここで言い続けたいと思いますがそのいつ、ま、何回目かなというふうに理解してもらったら結構です。
		北村	多分、今回中規模改訂だと思うんですね、中規模、ぜん、あの一、去年もやるべきであったんだけども本当に小規模のあの一改定に終わったんですね、で、林田さんが2、3年前にやるべきだったという議論はしてましたけどもね、林田さんも乗り切れなかったんだよね、正直いって
		林田	はい

		北村	でそこんどこでまだ
		林田	負けました
	30分57秒	北村	で多分 ** ちの *** ま、あの一、学部長も出てたけれど本当にあの一、経大の教学改革遅れてるといわれてんの、で、あの一、評価会社に対してはね、多分あの一複数の学校に、の中に入りこんで評価して、ま、おもにそれはあの外部評価なんですけども、その前提に教学改革遅れていますよと上げつなく言われてんだと思いますよ、で、それはカリキュラムの表をどう変えるのかということと終わらない問題をはらんでいるように、多分、林田さん、そそういうことを言うてんだと思うかな、あの一、ま、腹すえてやるべき時期が、多分、あの一、僕らの年じゃなくて、僕らの年齢じゃなくて、林田さんや ****、今回はあの一、去年からの積み残しの問題をつまり中心科目 *** できるように、ま、あの一、学生のあの、履修指導をできるようにしましょうと ****、これは、これが、け、ビジネス法学のほぼ固まって経営学も固まって、で、その次に何ががあるのかというたら、次、あの、2つの特別コースの * が重なってくる訳ですわ、それから2部のものを重ねて最後に仕上がりをしていく訳ですから、林田さん言うように今回ゼロからする訳ではないので
	31分5秒	黒田	えっと、この議論をするのであれば
31分6秒		井形	えっとこれについて、いや、僕は意見はちょっと言いたいんだけど皆さんは意見というのは、いや、ちょうど **
31分12秒		黒田	ゼミの学科別で吉井先生のご指摘があったように入学してその関心が変わったことはあると思うのでその場合、あの一、学科変更、学部内の学科変更という形で、あの、カリキュラムは法律の必須を沢山負わされているのに、経営のゼミに入ってる、あるいはその逆というのは双方いびつなので、もしほう法律の学科に入ったけどやっぱ経営学やりたいということであれば学科変更なるんですかね、***
	31分48秒	黒田	
	31分53秒	北村	いや、学科変更もあるし、学部てんてんになるかじゃないですか
	32分0秒	黒田	カリキュラム体系としては、ま、法律は *** を勉強している以上、法律のゼミというのは、ま、普通かなという気はします
32分1秒		井形	あの一、ちょっとよろしいか、あ、いや、あの一、これ、ご意見がカリキュラムに関しては、ま、あの一、当然、カリキュラム委員の先生だけではなくてですね、教授会の全員の先生がたの連携が *** 反映されるべきだと思います。んであの一、ちょっと吉井先生のあの一ご質問とかにお答えでないかもしれませんが、
		吉井	はいはい
32分20秒		井形	あの一、意見そのものについてはね、ま、我々今め ** すというのもございますしね、それから、あの一、この場でお話いただくということも可能ですし、前もって、ま、文書で ** どはこういう例えば今おっしゃった、あの一、林田さんおっしゃったように大きな、も一全く変えるような何かみたい、ま、これも例えば各 * カリキュラム委員の先生方、それから執行部の我々に送っていただく、これはもう可能やと思うんですね、
	32分42秒	井形	
	33分46秒	井形	で、あの一、ちょっと、あの一、ごめんなさい、私自身の質問、長い質問でこれで最後にさせていただいて、あの一、カリキュラムそのものはね、常にこれあの一、毎年のように考えていかなければいけないし、毎年のように変えていかなきゃいけない、これ、残念ながらのがれることはできない訳なんです。で、あの一、理由は何かといわれたら、ま、大学外のへ、あの一、環境変化にあわせて、例えば、今やったら就職の状況であるとか、それとか、本学の理念である、ま、実学教育をもっと、今あるべき実学教育をめざして変えていかなければいけないだろう、んで、カリキュラム委員の先生がたにはおそらくあの一、これは同時に2つ求めたいのですが、長期のプランを持ちつつ、来年どうするかとか次の秋学期どうするか、両面をやっぱり持ちていかざるをえないだろう、だから、あの一、なんかこんな言い方ちょっと大変失礼なんですけどね、中途半端な動きされても実は中途半端というのが一番正当な、ま、本来、職務を遂行されているがゆえに、ま、あの一、外から中途半端にみえて当然だと思いますね、で、あの一、ちょっとこれは、ま、こ、あのなんちゅうか、これ私の考えなんですけども、
	34分47秒	井形	それから、あの一、えーと、いま、とく *** さんなんかちょっと私整理しきれなかったんですが、あの一、本学部は、ま、経営学部、その中に経営学科とビジネス法学科があると、それからあのもちろん、あの、ビジネス法学科の先生方は実はあの一、個別に * ければ、あの一、法律の専門家が集まってらっしゃって、それじゃいい加減なことはやってらっしゃらないとは思うんですね、と一方ではこれは経営学部もそうなんですけど、個別の先生方は各専門分野にたけてらっしゃるんだけど、やっぱりこのカリキュラムというのは学生に伝える時に、本来先生が持っている能力資質が学生にきちんと、ま、伝授されないとか、体系だててわからないが故に ** 今回はカリキュラム改革案もやっ * 起こってきたと思うんです。んで、これはあの一、ど、どの先生が問題やと、僕は問題だけじゃなくて、も、そら、個別もあり全体も、み皆私も含めて考えざるをえないのかな、ということで多分今日のこの案が、ま、あの一、言う私があの一かなりすべて作ってらっしゃるとは思います。あの一、ちょっとこれは私の感想でございます。
	35分1秒	井形	で、あの一、ちょっと一点いいですか、これは私個人の問題になるんですけど、あの一、経営学科のほうでこれ経営学概論というのは、これ私ももっている経営学を変えるんですね、じゃないんですか、新しい科目を作るんですか？ これ
	35分2秒	本間	えー、名前を変更する提案です。
	35分23秒	井形	名前を変更する、つまり、じゃ、私はじゃ経営学を教えて、この概論という名前になると中身を変える必要がありますか？ これ、多分、あの一、この担当者と私ら誰か財務会計概論という、財務会計論とか、ま増村先生、今日は来られてないんですね、えっと、本田先生、なにか持たれてます、これ、概論と ***
		本田	いや、私はありません
		井形	ないですか、えっとと、なんと、商学概論がこれ、後藤先生ですか？
		後藤	え、

		井形	担当ですね、流通論からこれ変えられた訳ですね
		後藤	ん、あのー *** 改良科目で設け ***
35分46秒		井形	ちょちょっと勝手な想像だけど、これ流通論から商学概論に変えられると*、内容、なんかはプラスになっちゃうかなと思うけど、これはもう、先生はあのー、もうご了解というか、わかったうえで変えられる
		後藤	プ、プラス
		井形	え、内容がた多様化しませんか？ えいやいや、流通論という名称と商学という名称になると、
		後藤	あの、過去はね、
		井形	はい
		後藤	あのー、商学系の科目を少し充実させたいとあるんですよ、
		井形	はい、はいはい
		後藤	ところがスタッフの即戦力がいないということで、
		井形	はい
		後藤	えー、2年時に概論を設けてこれ *** ですね、これ、*** 2単位ですから、
		井形	んんん
		後藤	プラス、えー、専門の流通論あるいは流通政策を ***
		林田	名称変更じゃないんじゃない
		井形	で、これ、あ、新規科目 **
		後藤	うーん、新規じゃないですか、はいはい
		井形	そうしたら、今気になったEに関しては、名称変更による新規科目の設置と両方はいつてくるいう訳で、
		本間	商学概論は、じゃ、新規科目
		井形	じゃない、今お話聞いていると
		林田	それやった後で流通なんかをやるというんだから
		井形	ん、まー *** 残る訳ですね
		後藤	そうです
36分52秒		井形	そうなるよ、これ、いや、結構これ大きな変更になっちゃうと思うんだわ、単に名前をなになに *** <聞き取り不可> ***
37分3秒		井形	で、あのー、じゃ、もちろん、これ、先生 ** 今週かね、一度ちょっと会って概論でいいかと、んで私はあの、名前だったら何でもいいと思うんですけども、あのー、
		吉井	そうはいかんわ、そうはいかんわ
38分29秒		井形	じっくりいかんところがちょっとあってね、総論という名称が *** 、あ、これはいいです。ただね、あのー、* んんとしてね、ちょっとこれあの、カリキュラム委員と他の先生がたに申し上げたいのは、あのー、単純にちょっと申しますと、我々実はあの、ここで採用された科目がまずありますよね、なになに、例えば、あの、ほ本間さん、経営組織論と、で、ところが本間さんは組織論だけを教えたらいいんじゃないかと、当然、ゼミを2.5コマ持ちます。それから経営組織論を例えば1部と2部持ちます。ま、2部も2つあるんだけどね、あの、ま、ま、どっちか1ついいほう ** ま、あります。それから、えーと、入門科目というのが2つ、今の、あの、現状では、あの、現代経営入門にあたるのかな、科目をもってくださいと、なおかつ、あのー、当然、大学院科目 *** というので、ま、量的にね、少しこー、*** 少ない ** にお願ひ、あ、自分も含めてね、できたらな、という思いはあります。で、ところがですね、その一方で、あのー、ま、こういった形で、ちょっとご意見あったように、新しい科目が1つ増えるとなると、当然、これ、あのー、その1年ぐらいいいんだけど、それをズーとこう、当然、これ、商学概論も流通論も ** 続けていくと、当然、ある年から1科目増える、それが重要な科目が増えていくとなると、ま、あの、** と、負担増にはつながる可能性があるよね、
		後藤	ま、あのー、商学概論に関しては
		井形	はい
		後藤	ありません
		井形	ないんですか
		後藤	むしろ
38分39秒		井形	ということは、先生は流通論は、もう持たれないということですか？
		後藤	流通論はやります。ん、だからもう私の場合は *** するかもしれないけれども、
		井形	はい
		後藤	えーは、それはほんとに個別の話になるから、
		井形	はい

		後藤	調整にならないと思います。
	39分36秒	井形	<p>んですね、でね、あの一、多分こりやちよつとしゃべりすぎてい * んですねよ、あ、* んと実はね、この先生はね、やるまでカリキュラム委員をね、3年、4年ぐらいやったんかな、あ3年、2年、2年...、あの、悩まされたのはね、あの、そうだと、その科目は増えていくということは自分の持つてる教学の労働量が拡大していきますよね、で、どっかで削らなきゃいけない、ん、例えば、私であれば、「経営学で採用された」、「ガバナンス持ちます」、じゃ両方しんどいから、じゃ、ま、仮にだけど、** 科目を削りたい、大学院も削りたいとなっていき、行くときにおうおうにして問題が起こってくる訳ね、で、その辺はね、あの一、気をつけていかないと、何か改革案を出された時に、そのま一、ちょっと私の専門用語ですいはんせつけいというのが起こってくると思うんですね、目的としてはこれでよかったですけども</p>
		林田	そうならないようように教員を増やすように
		井形	ん、ちょ、ちょっと待ってくれ、これは ***
	39分40秒	林田	努力すべきじゃないんですか
		井形	んん(笑い)ん、ちょっと待って、たんじゅん単純や *(笑いながら)*
		林田	あ、* 単純じゃない
		井形	あ、そら、あの、それもあるんだけれども、ただあの一わりとあの一一方でこう大きな改革というのはともないますんでね、だから、ま、ちょっとこれ結論なりますが、だから、ある程度こうぎくしゃくしながらやっていかざるを得ないというのはもう覚悟しましょう、
	40分0秒	井形	んであの一、カリキュラム委員会が全部決めるというのは、ま、先生もちょっと今異議があるというようなことおっしゃいましたけどね、
		吉井	あ一、僕のこと、
		井形	ええ一
	40分9秒	吉井	僕はそう思いますよ、異議ありますよ
		井形	*** ちょっと、せん *
		吉井	はいはい
		井形	先生への反論なんですけどね
	40分11秒	井形	とは言うもののね、これ以外にある、あらためて会議開く、例えばこの教授会の後で開いたところで過去やっぱりこう先生集まらなかったでしょう、先生、
	40分22秒	吉井	あのさ、
		井形	はい
		吉井	やり方を変えればいいんですよ、
		井形	やり方 **
		吉井	それから1つ、さっきの話でね
		井形	はい
		吉井	その、あなた言っているけれども、その一、いわゆる一般の民間企業であれば、マルチタレントが非常に要求されてきている訳、社会環境の適応にあわしてね
		井形	はいはい
	41分46秒	吉井	<p>だから、先生が1つの、え一、担当科目を教えようと思ったならば、その周辺科目に対しての非常にディテールな情報を持っていることによってね、その一、教えようとするものが光ってくる訳よ。</p> <p>だから、その一、いわゆる先生方ご自身も自分はこの分野だけだというんじゃなくて、マルチタレントであるべきであるというそういう前提ね、で、そのしよ、あの、マルチタレントは逆にいうと、ふ普通の企業であれば省人化ということがある、ある訳だわ、ね、</p> <p>だから、経営するためには、その一、え一、そういうその一、いわゆる、汗を流すという分野をどう考えるのかということとね、で、僕が一番最初に言ったのは、いわゆる、学生をどんな姿の学生を送り出すのかということから、それを順番にブレークダウンしてきたならば、その一、担当科目の内容、内容があって担当科目が決まると思うんだけれども、そういうものがブレークダウンされてくる訳だから、そこに我々の現有勢力を割り当ててですね、で、え一、そうでない分野のところについては、新しい担当の先生を、え一、その一、雇用していけばいいというのが私のストーリーです。</p>
	41分52秒	井形	はい、あの一、ちよつちよつと待ってください、時間ありませんこれはあんまり議論はあれする気がないんですが、あの一、ま
		大田	いいですか、ちょっと
		井形	はいはい、どうぞどうぞ
		大田	あとからでもいいですか、
		井形	はい
		大田	あとでいいですか
		井形	え、い、今おっしゃいます

41分58秒		<p>あ、いいですか、あの、あのー、ま、まさにいままでお話しでて、あのー、ま、少なくともですね、ご存じのようにもう後数年したら立命館大学の経営学部が来ると、で、まー、そこあのー、全くバッティングするかどうかという議論はあるんですけど、いずれにしても、ま、環境は厳しくなってきましたよねと、そのなかでやっぱり、あのー、なんていうのかな、あのー、経営学部にも多分求められているのは、あるいは、多くの我々のレベルの学生が求めているのは、やっぱり実践的な知識だと思うんです。で、そうした場合、つまり、大学院もそうなんですけども、パッケージでやっぱりものを与えていくちゅうかね、ま、</p> <p>一人の先生が全部できる訳ではないので、まー、こういう学生をつくると言った時に、ま、その関連の科目があると思うんです。で、その関連の科目でそれぞれが一体何を与えますかという話し合いはこれからやるべきだと思います。</p> <p>で、大学院のほうはまだこじんまりしているの、例えば非常勤の先生も入れて、我々はこういう内容を教えてもらいたいと思うんで、それぞれの科目はこういうことをやってくださいということをお願いしようと思っています。で、当然、学部は非常勤の数が多いんで、そこまでできないまでも、少なくとも専任の教員の間ではね、あのー、ある科目は、じゃ、何を目的にどういうことを教えますか、ということはやっぱどっかで話し合いをする必要があるんじゃないかなと思っています。そういう形で、えー、あのー、やっぱり組み立てていくべきじゃないかなーというのと、これ、多分、の後ほど出るんですけど、えー、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーというのは、これは学外に打ち出す訳ですから、やはり、このポリシーともやっぱり合わない駄目ですね</p>
43分38秒	大田	え、は **
43分50秒	大田	当然ね、時間かけて、ただ、今年はちょっと無理にしても、やっぱり来年度以降にむけてやっぱりそういうしんどい作業をやっていく必要があるんじゃないかなというのが私の ***。
	井形	はい、ありがとうございます。
43分51秒	北村	あとでね、まー、あの、あんまり、あのー、あんまりしゃべらない ** <聞き取り不可> ** 進度からしてね、あのー、ま、あのー、ビジネス *** 大体固まってきたなとして、 ***。で、やっぱし、ややあのー、今、話題になっているような概論のところというのは、あのー、賛成意見も多いけれども反対意見も若干、ま、カリキュラム委員会のなかではですよ、*** だから、調整中として、本間さんなり後藤さんなりが皆さんの意見徴集しながら、あのー、次までに、ちょっと、あのー、方向を決めてね、となってますよ、それ決定がちつともおかしなくて、何も押しつけてる訳でも何でもなくて、んで、それを早くね、やられないと、次、あの、こ、特別講師も、カリキュラム委員会も、あの、ま、大体方向が固まりつつあんなやけども、それ ** きてるんでね、それをやりつつね、ま、今おっしゃってるような、そのー、あのー、ま、あの、教学かくだい ** も含めてね、あのー、考えないかんというのが、秋以降の、あの、話題になるんだと思いますね。で、あのー、そ、総論の精神論ですけどもね、個別の話をね、とりわけ、あのー、経営学科のこの辺の話を ** 遠慮しておっしゃっているけれど、あのー、一教員としては、あのー、そのようにおっしゃっていいわけだから、やられるとの * 話で、その他のところはね
45分14秒	井形	はい
	北村	まず固めて、それで、絶対これに合わせてやんなきゃなんて言っている訳じゃないので
	井形	はいはい、はいはい
45分22秒	北村	進められたほうがいいと思いますよ
	井形	はい、はい、ありがとうございます
	本間	ちょっと、あのー、僕も一応とりまとめになりっぱいので、*** 発言してよろしいでしょうか？
	井形	ああ、はいはい
	本間	えー、ま、僕自身は名前は何んでもいいと思っています。経営学概論でも総論でもなんでもいいと思っています。で、現在、経営学を担当されている先生が4名しかおられないので、この4名の方を先生のご意向から、あの、議論を始めたいと思います。で、この中で経営学を担当したいという先生はおられますか？新規に
	北村	新規に、興味がない、はい
	本間	そうしたら、
	井形	ちょっと、
	本間	そういう先生もはいついていただくのは
46分3秒	井形	ちょっと、経営学を担当というのはどうということかな
	本間	その、クラスが足りなくなるので、えー、複数クラスを

46分6秒		あの一、ちょちょっとその件については、ちょっと前にも言いましたけどね、あの一、これ、ちょっともとへ話もどるんだけども、それぞれの先生には、あの、採用科目があるよね、で、それプラスしてある科目をもつという、ええ、つまり、あの、ちょっと、僕の場合は、経営学で採用され、コーポレートガバナンス持ってます。これ、まだ、小さいは、ま、小さくはないんだけど、あの、やって、あの、経営学を持つというのは、ちょっと、これ、なかなか認めがたいはずなんですよ。もっとはっきり言いますか？あの一、採用がある専門分野の先生は、その一、経営学を持つというのは、あの一、期間限定で、もしくはね、あの一、きき、緊急を要する場合は可能なんだけど、その経営学をずっと持ち続けられると言うのは、僕は実は反対なんです。よろしいですか、これが、あの一、学部長を超えますよ。経営学の担当者として、あの一、ま、はっきり言いますけれども、できたら、私のかたはご自身の専門分野にもっと特化した、ま、研究、進めていただいたほうが、長い目でとつたら、この学部にとってはいいはずだと思うんです。で、経営学の担当については、前にも申しましたが、非常勤で代用したいというのが僕の見解なんで、ほっとくと、これ、1年の、ま、現代経営入門であるとか、ちょっと、私が持っている経営学、みんながみんな持つから大変だという議論で、あまり勧められるとこれ、学科、経営学科の教員増について他学部からはあまり評価されないと思うんですね、
47分42秒	井形	
	吉井	ちょっと、
	井形	はい
47分45秒	吉井	おれに意見いわせてくれ
47分46秒	井形	いや、ちょちょっと、せ先生は経営学の担当やないので
47分47秒	吉井	いや、あ、あなたの発想がプアーだからさ、
	井形	あ一、そうですか
	吉井	ん、非常に情けなくて、あの一、経営学と経営学総論ということになってくると
	井形	はい
48分16秒	吉井	その一、経営学分野について非常に造詣のある、そういう、その一、状況からね、その、講義をすべきだと思うんだわ、そうしないと、聞いている学生は、さ、その、経営学に対して興味を抱かせることができないじゃない、だから、そ、そういう観点からね、非常勤でねという発想するのは僕にはとてもじゃないけどたまらんわ、というふうに思います。
	井形	わかりました、そうしたら ***
	吉井	あ、それともう1つ、
	井形	はい
	吉井	あの一、僕はあの一、以前は、え一、なんだっけ
	井形	ひとつ、ひとつ、先生、言っておきますけどね
	吉井	は
	井形	プアーというのはあまり使われないほうがいいと思いますよ
48分29秒	吉井	いや一、その発想が僕はプアー、だっ、あの一、もっとズバツと言うたらいいやんか
48分32秒	井形	いや、ズバツと言うて、あなたおっしゃったじゃない
	吉井	いやいや
	?	プアーというのはよくないな
	吉井	いや、そりゃ、あなた、プアーという言葉だけとらえるから非常に寂しく感じる訳や
	?	ちょ、ちゃ <非難の声が沸き起こる>
	吉井	ちょっとちょっと意見言わせてくれ
	池島	意見があるということで、
	吉井	ちょっと待って、ちょっ、ちょっと待って
	井形	もう結構です、
	吉井	ちょっと待ってくれよ、発言させてくれよ
	井形	もうこれで終わりです、これで
	吉井	ちょっと待ってくれよ
48分47秒	井形	いや、もう結構です。そんなこと、おっしゃるかおっしゃらないか **
	吉井	違う、あの一、彼が言っている、その人数の件についてやけどね、僕は、
48分56秒	井形	いや、もう結構です。あの一、先生の意見は、そういうのは言ってしまうと終わりです。
	吉井	あなた、情けないね

		井形	情けないですよ
		池島	ま、あの、先生、ちょっと、じゃ、あんまり、ちょっと、この事項は、あの、あれして、じゃ、
		?	** いいですか、
49分18秒		池島	そしたら、あのー、えーと、2枚目のですね、ちょっとまとめますと時間ありませんので、次も *** がありますので、経営学科の部分、これ以外についてはご承認いただいたということで
			*** <省略：名称変更の話などが続く、例えば、企業倒産法から倒産法に、といった変更の確認など> ***
49分50秒		井形	はい、そうでしたらね、
			*** <省略> ***
65分21秒		池島	ありがとうございました。 そうしたら、えーっと、経営学科につきましては本間先生 ***、 本間先生と後藤先生で、えー、意見集約していただいて、次回のカリキュラム委員会、それから、教授会で *** <聞き取り困難> ***、ありがとうございました。
	65分38秒		